

◎ケアラベルの種類と意味

家庭洗濯などの取扱い方法の表示は、JIS L0217(繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法)で規定する記号(取扱い絵表示)で表示します。



記号の組み合わせの順序は、

「洗い方(水洗い)」「塩素漂白の可否」「アイロンの掛け方」「ドライクリーニング」「絞り方」「干し方」の順に、左から右に並べて表示します。



(1) 洗い方(水洗い)

番号	記号	記号の意味
101		液温は、95℃を限度とし、洗濯ができる。
102		液温は、60℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。
103		液温は、40℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。
104		液温は、40℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(1)がよい。
105		液温は、30℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(1)がよい。
106		液温は、30℃を限度とし、弱い手洗いがよい。(洗濯機は、使用できない。)
107		水洗いはできない。





注(1)弱い手洗いには、振り洗い、押し洗い及びつかみ洗いがある。

付記及び記号の仕方	
	中性洗剤を使用する場合は、液温を示す数字の下に「中性」の文字を付記する。
	「ネット使用」の場合には記号の他に付記する。


(2) 塩素漂白の可否

番号	記号	記号の意味
201		塩素系漂白剤で漂白ができる。
202		塩素系漂白剤で漂白ができない。




(3) アイロンの掛け方

番号	記号	記号の意味
301		アイロンは 210℃を限度とし、高い温度(180℃～210℃まで)で掛けるのがよい
302		アイロンは、160℃を限度とし、中程度の温度(140℃～160℃まで)で掛けるのがよい。
303		アイロンは、120℃を限度とし、低い温度(80℃～120℃まで)で掛けるのがよい。
304		アイロン掛けはできない。



付記及び記号の仕方

	「あて布」をする場合は、記号の下に波線を付記する。
---	---------------------------





(4) ドライクリーニング

番号	記号	記号の意味
401		ドライクリーニングはできる。溶剤は、パークロロエチレン又は石油系のものを使用する。
402		ドライクリーニングができる。溶剤は石油系のものを使用する。
403		ドライクリーニングはできない。

(5) 絞り方

番号	記号	記号の意味
501		手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は、短時間で絞るのがよい。
502		絞ってはいけない。

(6) 干し方

番号	記号	記号の意味
601		つり干しがよい。
602		日陰のつり干しがよい。
603		平干しがよい。
604		日陰の平干しがよい。